

第三種郵便物認可

矢作川上流の根羽中学―下流の愛知安城市の中学



ゲームを通じ交流する根羽中と篠目中の生徒たち

交流深めた30年

根羽村の根羽中学校1年生10人と愛知県安城市の篠目中学校1年生286人が8日、村内にある同市茶臼山高原野外センターで交流した。村を源流とし、同市の水源となっている矢作川を通じた縁で両校の生徒は互いに訪問を続け、こととして30年目を迎えた。親子2代の交流となった生徒もおり、両市村のつながりは着実に深まっている。

親子2代で参加の生徒も

両校の交流は篠目中が開校した1983（昭和58）年から始まった。篠目中が毎年春に同センターを訪れ、根羽中は毎年8月に同市の七夕祭りに招かれたり、篠目中を訪問したりしている。

この日の交流会では、根羽中の生徒が学校行事などを説明した後、両校混成の9グループに分かれた。ゲームや屋外でのバーベキューを楽しむうち、生徒たちは次第に打ち解けた雰囲気になった。根羽中の山

「長く続きうれしい」

崎亮太君(12)は「篠目中は生徒が多く初めは緊張したけれど、すぐに仲良くなれた」。篠目中の秋末日和さん(12)は「根羽中は明るい子が多かった。普段は会えない他校の生徒と仲良くなれて楽しい」と笑顔だった。

生徒の保護者には、自身も中学生時代に交流した経験がある人も。山崎君の母千香さん(41)は、83年の1回目の交流に参加した一人で、取材に「ここまで長く続くとは思わなかった。うれしいことです」と振り返った。中学時代、篠目中の生徒と文通をしたのもいい思い出という。

両市村の交流は、安城市側が根羽村内の森林整備を支援したり、村が市内の子どもたちに雪をプレゼントしたりと多岐にわたっている。

聞

2012年(平成24年)5月9日

水曜日

1部70円 (1ヵ月1,500円)
日刊 (但し月曜日休刊)



発行所 南信州新聞社
〒395-0152 飯田市青島町2-2-5
電話 (0265) 代表 ☎3734
編集 ☎0704 FAX ☎7072
営業 ☎0352 FAX ☎0537
出版 ☎3732 FAX ☎7072
振替口座 00590-0-3452

SHIHOYA
伝票・コンピュータ帳票
名刺・封筒・挨拶状・チラシ
議事録・会社案内・判取帳
国店頭
飯田市伝馬町2丁目
☎22-1553
FAX24-4541

きょうの紙面

10	9	8	4	3	2
オケ友フオトリポート	おもてなし向上へ研修会	シニア大の入学式	アザリー開幕戦に勝利	高森でカヌー教室が開講	豊丘に「かあちゃんのお店」

茶臼山交流30年目に

根羽村と安城市の中1生

根羽村立根羽中学校の1年生10人が8日、同村の茶臼山高原で11日まで自然教室を開いている愛知県安城市立篠目(ささめ)中学校の1年生287人と交流会を開いた。30年目を迎えた交わりの機会を喜び多いものにしようと、両校の生徒は積極的に会話をしながら、矢作川上・下流の相互理解を図った。

交流は篠目中が開校した1082(昭和57)年以来続く恒例行事で、8月上旬には日でも毎年交流。親子2代にわたって行き来した人も多く、水源域と下流域のつながりが学べる機会にもなっている。

ターで開催。混成グループに分かれ、レクリエーションや野外でのバーベキュー、歌の交換などで親ほくを深めた。

根羽中の松下菜由さんは「少しずつ声を掛けてくれたので仲良くなれた」と笑顔。篠目中の吉岡佑華さんは「根羽の子は違う中学の生しい」と話していた。



仲良く交流する根羽中生(左)と篠目中生(茶臼山高原で)

根羽中の藤木一弘校長は「普段は少人数でアットホームに生活している生徒たちにとって、大集団で人と交わる経験は貴重。違う環境で育っているので、互いに関心な刺激が得られる」。

篠目中学校主任の安田雅人教諭も「少人数ながら素晴らしい歌声にはいつも触発される。違う地域で互いの頑張っている姿を見せ合うことは、子どもたちの成長に大きな影響を及ぼす」と、異口音に交流の意義を語った。

安城市の全公立中学校1年生1976人は今月から7月まで、茶臼山高原で4泊5日の自然教室を開き、水源散策や登山、そば打ちなどを体験する。